

科目	社会生活と法律	担当	栗原 潤也	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

社会生活において身近な事例を挙げながら、法律について馴染みをもってもらえるよう努力し、授業をすべて履修した結果、法律について基本的理解を得ることを目標とする。

【履修注意】

- 1 毎回、出席をとる(出席点あり)。
- 2 適宜、小テスト(10分程度で解答できるもの)をする。
- 3 私語等、他の履修者に対する妨害となる行為をした場合には厳正に対処する。

【評価方法】

- ・定期試験、適宜求める小テスト及び出席点によって評価する。
- ・欠席が5回以上の場合には定期試験を受験することはできない。

【試験について】

- ・筆記式試験であり、詳細は講義中に言及する。

再試験対象者の条件:再試験は行わない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

【教科書】

購入教科書なし。法律の条文を確認する必要があるので、PCを持参してください。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	金銭貸借をめぐる法律①	金銭貸借に関する法律を解説する。
3	金銭貸借をめぐる法律②	金銭貸借に関する法律を解説する。
4	憲法①	身近な憲法問題を解説する。
5	憲法②	身近な憲法問題を解説する。
6	刑事事件に関する法律①	刑法、刑事訴訟法を、事例を用いて解説する。
7	刑事事件に関する法律②	刑法、刑事訴訟法を、事例を用いて解説する。
8	交通事故に関する法律	交通事故に関する法律を、事例を用いて解説をする。
9	親子関係の法律	家族法について、具体例をもとに解説をする。
10	婚姻関係の法律	家族法について、具体例をもとに解説をする。
11	相続・遺言の法律	家族法について、具体例をもとに解説をする。
12	知的財産をめぐる法律	特許法、著作権法等の知的財産権に関する法律を解説する。
13	労働に関わる法律①	労働関係に関わる法律について事例をもとに解説をする。
14	労働に関わる法律②	労働関係に関わる法律について事例をもとに解説をする。
15	期末まとめ	14コマの復習講義
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ